

ふれあい懇談会 2021

アフターコロナと

由比ガ浜 4 丁目大規模開発計画の見直しと提案

開発業者は商業施設の屋上駐車場を辞め、平置きにだけにすれば可能かと打診してきたが、風地地区に屋上駐車場などはそもそも論外であり、平置きも 85 台もまだまだ多過ぎで、来街者の格好の駐車場利用の的となることは容易に想像できる。134 号線と北側の歩行者尊重道路を結ぶ由比ガ浜関谷線(都市計画道路横浜藤沢線)の僅か 200m 弱の短い道路上に県営地下駐車場、KKR 若宮隣接のコインパーキングとその向かい等々・・・既存の時間貸し駐車場だけでも既に 300 台を越し、そこへ集合住宅や戸建ての駐車場を含めれば更に台数は増す。既にこの地域は駐車場過密状態だ。

鎌倉市は 134 号線の慢性渋滞の緩和と市内へ流入車両を減少させることを大きな課題とし長年に渡り莫大な税金を投じ、調査を続けてきた。そのデータを元にロードプライシング等の計画打ち立てている。旧鎌倉市内の主要幹線道路へと繋がる場所に巨大な駐車場施設を置くことは市政の目標と真逆である。鎌倉市がこれまで膨大な時間と税金と入力を投じ積み上げてきたものをなし崩しにすることになる。大店立地法の理念を郊外の広大な土地や道路のある場所に建てる場合と旧鎌倉エリアに建てる場合と併用することは到底できない。立地法の特別枠として、この場所にあった最適解を求めることは鎌倉市と開発事業者の責務である。

では、鎌倉市も事業者も winwin となる計画とは何か……? 「車で来ない!」ということ的前提に計画を練り直してみてもはどうだろうか。スーパーマーケットという計画は決して必要ないというものでもなく、特にコロナ下においてより需要は高まった。このコロナパンデミックで健康に安心して暮らすという人間にとって基本的なことがいかに大切かを多くの人が改めて認識したことは確かだ。そして食べることは生きることに直結し、現代においてはその供給源となるのはスーパーマーケットだ。しかし、扱われている物の多くは海外からの輸入に頼るものばかり。日本の食料自給率の低さの問題は、このコロナパンデミックによって深刻さが露呈した。今回のような世界的パンデミックで流通がストップすれば自国で水や食を賄えない国はアウトだ。第一次産業の衰退は国家の衰退であり、国内食料自給率を上げることが国を守り強くすることに直結することは明らかだ。

しかし農薬、化学肥料、有害な食品添加物、遺伝子組み換え、など国産であっても家族に安心して提供できる食品がいかに少ないかを、主婦である私は常日頃強く感じている。だがその問題と向き合い、安心して食べられ更に健康となる野菜や穀物を生産している有機農家はほんの僅か、とても全体に行渡らせる量ではない。だが日本には大変優れた有機農業研究者たちがいる。彼らの優れた農業技術はこれからの人類、これからの地球にとつ

て大変有用であり、まさに日本から世界へ発信すべき日本の技術といえる。戦後日本はアメリカの指導の元大規模な工業型農法を進めてきた。自然に寄り添わないその農法は大量の農薬や化学肥料また燃料を必要とし、最終的には土壌の微生物は死滅し不毛の大地となる。

海域も同じである。大企業の乱獲により豊かな日本の水産資源が今どんどん減少している。もともとあった日本の漁師たちの漁業法が最も優れていたこと、かつての日本の伝統であったもやい漁業がいちばん持続可能で優れていると世界の水産研究者が注目している。そんな世界一豊かな水産資源のある国の国民がなぜ遠くから運ばれた外国の魚やゲノム編集の養殖魚を食べなければならない許しがたい現状だ。

自然と共生する優れた最新技術でありながら、日本人の DNA に刻み込まれた本質的ともいえる力と知恵を用いて、日本人の命を支える第一次産業を本当に安全で健康の源となる食糧生産業に変換しながら復活させていくことがどれだけ大きな未来への貢献であり、本物の豊かさの報酬を享受できるか計り知れない。

SDGs:持続可能開発目標が世界のテーマであるなら、まさに今まで述べてきたことこそ人類の最重要課題といえる。それ(人と自然が共生し豊かさを共有する)をテーマにこの地の実験的なスーパーマーケットをつくってはどうか? 研究、検証、実践のできる研究型商業施設、生産、流通、販売、消費者が有効的に繋がっていく。そこには IT 技術も必須。消費者も買い物に来て多くを学べ、また自己の消費行動が実在の価値を生み出し社会貢献へと繋がってゆく、その貢献は更なる豊かさになって自分に、自分の家族に、また未来の人々に還ってくるという本物の価値の交換ができる市場=スーパーマーケットを企業と鎌倉市がタックを組んで進めていくのはどうか?そんなヴィジョンであるならば巨大な倉庫型建屋は必要なく、人と環境に優しいをテーマにした建築物なるだろうし、大きな駐車場も不要(ハンディキャップと搬入搬送車のみ)その分、地球の緑地化を研究する実験的ガーデンにする。その中には風土に合ったミニ菜園の実践畑などもあり子供から大人まで植物や農業について学ぶことができる。菜園で収穫した野菜やハーブ、販売している有機食材を使った料理をいただける海と畑の見える食堂カフェ運営も魅力的だ。商業施設と一体開発計画の大型マンションも、採算のみで計画され、風致地区にありながら意匠のかけらも感じない、周囲先住者からの意見、意向を無視した計画だ。コンクリートで埋め尽くす大型駐車場付き商業施設と大型マンションの計画を鎌倉市民も来街者も楽しめる健康と学びと経済発展のプラットフォームとなる研究型商業施設へ。そんなヴィジョンであれば、鎌倉の海岸と公園も一体とらえ開発していくべきだろう。同時に夏の海水浴場被害問題も改善へ繋げていけるだろう。SDGs を掲げる観光都市鎌倉にとって、従前より抱えている多くの問題を見事に払拭し、これからの日本の未来を力強く支えていく持続可能な輝かしい事業となるだろう。そしてそのノウハウを全国へ広めていくことが出来れば本当に

日本が自給自足できる豊かな強い国なるかもしれない。そんな夢のある実在価値のある事業であるならばこの地で展開する意味があるだろう。

令和3年5月10日

由比ガ浜西自治会

会長 兵藤 沙羅